

「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

# 赤十字 NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS

<https://www.jrc.or.jp>

令和4年11月1日(毎月1日発行) 赤十字新聞 第990号 昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

NOVEMBER 2022 NO.990

# 11



わたしも赤十字

寄付の協力者

なかもらひと  
中村広人さん【P.4でご紹介】

## 特集

後悔しない、させない終活

# 希望の最期を考える

赤十字の最新情報をSNSでチェック!



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 TEL: 03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**  
Japanese Red Cross Society

# 希望の最期を考える

## 後悔しない、させない終活

静岡県の伊豆赤十字病院に併設された看護小規模多機能型居宅介護事業所・レクロス小立野は、<sup>こたちの</sup>通い・泊まり・訪問介護・訪問看護の4つのサービスを複合的に行う施設。施設利用者が希望通りの“最期”を迎えられるように、伊豆赤十字病院が作成に協力した伊豆市の終活ツール「もしもシート」を活用しています。理想の終活に向き合うレクロス小立野の利用者とその家族、職員の声をご紹介します。

### 「我が家で最期を迎えたい」 父の希望をかなえられて 最高の看取りができた



元気だった頃のお父様(右)。令和2年からレクロスに通所しているお母様(左)と、最後の3カ月は二人一緒に通所できた



しもむらまさのぶ  
下村政信さん

お父様の入院前、深夜に救急車を呼んだがコロナ禍で搬送先が決まらず、1時間以上も救急車の中で待機した。だからこそ、「いつでもすぐに駆けつけてくれる、レクロスの手厚い看護サポートには感謝しかありません」と下村さん

同じ敷地内に4世代の家族で暮らしていた94歳の下村才一郎さんは、今年9月26日に住み慣れた自宅で眠るように息を引き取りました。耳は遠くなっていったものの、体は元気だった才一郎さんが体調を崩したのは5月下旬のこと。病院で肺水腫と診断され、そのまま入院となりました。

「昭和1桁生まれの父親は病院が大嫌い。一刻も早く自宅に帰りがたいため、病院側が退院後の看護サポートとしてレクロス小立野とつないでくれました。その際に、最期を過ごす場所や治療方針の希望、亡くなった後の対応などを事前にまとめる『もしもシート』の記入を勧められたのです」(長男・政信さん)

レクロス小立野では下村さんの在宅での看取り支援も行いました。「父は実の父親も自宅で看取った経験があり、自分もやはり『最期は住み慣れた自宅で』という思いがありました。私もその希望をかなえてあげたいと思っていました。しかし『もしも』のとき、家族としては判断に迷う選択もありました。父の意思をまっとうさせてあげるためには、『口頭ではなく文書で残す』ことがとても大切だと考えました。自分も息子たちへ口頭では伝えているけれど、これから書いておこうと思っています」



認知症が進行しているお母様を見守る下村さん

レクロスに通所していた才一郎さんが、起き上がれなくなったのは9月上旬。主治医からは「あと1カ月ほど」と診断されましたが、「もしもシート」に沿って積極的な医療はせず、自宅で過ごすことを選択しました。

「レクロスもすぐさま通所から訪問看護に切り替えてくれ、『何かあったら24時間いつでも電話を』と申し出てくれたのには驚きました。亡くなる前の1週間は、子どもや孫、ひ孫が代わる代わる自宅を訪れて、父も満足そうでした。このコロナ禍に入院していたら、こんな時間は過ごせなかったでしょう。亡くなった当日は看護師さんが早朝から3度も来てくれたんですよ。その日の昼、2度目の訪問で体を拭いてもらい、父は気持ちよさそうにスヤスヤと眠って、姉も私も大丈夫だろうと、自宅で食事を済ませ戻ってきたら、穏やかに亡くなっていました。」

残された訪問看護の記録、一つ一つに、丁寧なメッセージが書かれています。本当にね、こんなに親身に、何度も来てくれて、私たち家族の不安にも寄り添う支援をしてくれるのは、レクロスさんならではの。他のところでは、ここまでの支援はないんじゃないかな、と感じています。レクロスの皆さんに全力でサポートしてもらい、家族と豊かな最期の時を過ごせて、父は幸せです。私も家族も、最高の看取りができたと思っています」



「もしもシート」と「看取りの記録」

最期の在り方の希望を記入する「もしもシート」(上)。訪問看護の職員の熱意がこもった「看取りの記録」(下)

### 孤独な生活の中でも 笑顔がこぼれるのは レクロスの皆さんのおかげ



補助器具なしには歩行もままならなくなった若林さんは、レクロスに来たら歩行練習も行う

80歳の若林睦子さんは7年前に夫を見送り、現在はレクロス小立野のサポートを受けながら一人暮らしをしています。「親族はみんな他県で暮らしていて、広島に住む姉から『もしものときはどうするの?』と心配されますが、世話になることはできません。自分では元気なつもりだったけど、最近は糖尿病の進行で大好きだった本も読めなくなりました。足が悪いので外出も自由にできず、楽しめることが何もないんです。そんな中、レクロスに週3回通い、訪問看護とヘルパーさんが来てくれて、週に6日もお世話になっています。おかげ



わかばやしむつこ  
若林睦子さん

活発な性格の若林さんはドライブや旅行が好きだったが、今は、一人では家から出られない。若林さんの介護度では市内の特別養護老人ホームに入れず、不安な一人暮らしを続けている

で生活ができて、そしてなんとか、笑うことができます。レクロスの皆さんは本当に私を支えてくれています」

ケアマネジャーの勧めで「もしもシート」を記入したのは今年5月のこと。「シートの『最期を過ごす場所』の希望は『病院』を選択しました。延命治療をするかどうかなど、ケアマネジャーの重倉さんと相談しながら2人で書きました」

「もしもシート」を記入して、気づいたことがあるそう。「誰にでもその時が来るのは分かっていたけれど、改めて『しっかりしくちや』と思うようになりました。家にあがるときには、必ず心の中で『転ばないように、転ばないように』と言い聞かせるんです。重倉さんや皆さんに助けてもらって、私もまだ元気でいたい、頑張ろう、ってね」

### 誰もが希望の最期を 安心して迎えられるように

「どのように最期を迎えたいか」は、その方の尊厳に関わる大切な問題です。ですが、長年ケアマネジャーをしていても、終末期や最期についてのご意見を本人やご家族に問うのはためらいがありました。若林さんとは、亡くなったご主人をよく知っていたので、早くから信頼関係を築けていました。それでも、この質問はしづらかった。そこで『もしもシート』を活用。若林さんがシートに、病院で最期を迎えたい、延命はしないしてほしい、と回答するのを見て『よし、ご自宅でケアできるうちは、精いっぱいサポートしよう』と私も腹をくくりました。短期間に自力ではできないことが増えていく若林さんの場合、介護保険や行政のサービスでは支えきれず、私たちレクロス職員は、ゴミ出しや、市営住宅の更新手続き、一人暮らしに不要な食器や衣服の処分など、あらゆることをサポートしています。たくさん持っていた蔵書も、もう読めないからと一緒に処分しました。若林さん自身も元気なうちに身の回りの整理、『終活』をできるだけしたいという気持ちがある。自分が最期を迎



看護小規模多機能型居宅介護事業所  
レクロス小立野  
介護支援専門員・ケアマネジャー  
しげくさ ゆり  
重倉小百合さん

えるときに周りに迷惑をかけたくないという思いを、できるだけ尊重したい。『もしもシート』はその人が希望する『最期の在り方』と向き合い、周りに伝えるのに有効なツール。年齢に関係なく、書いてもよいものだと思います。



### 伊豆赤十字病院に聞く、「もしもシート」作成の背景

伊豆市は65歳以上の人口が41%を超える高齢化地域です。平成28年、伊豆赤十字病院が伊豆市と在宅医療の事業で提携を結んだところから、終末期の意思表示ツール作成の構想が始まりました。翌年からアンケート調査を行い、「もしもシート」が誕生したのは令和2年のこと。病院や役所でお配

りしており、伊豆市のホームページからもダウンロード可能です。「もしもシート」で、元気な時から自身の終末期を考えてもらい、記録を残せば、望まない医療を避けることができます。その時は突然訪れることもあります。こうした備えは、悔いのない最期を迎える安心材料になります。



# NHK 海外たすけあい

## 「誰も取り残さない。紛争からも飢餓からも。」

キャンペーン期間:12月1日(木)~25日(日)

### 関心の差が、支援の差になってはならない



© Annalisa Ausilio/Italian Red Cross

長らくコロナ禍、ウクライナ人道危機など、大きく報道されている情報の陰で、アフリカの食料危機が深刻化していることは、あまり知られていません。(P. 8でアフリカの実情をレポートしています)

また、気候変動の影響とみられる大規模な干ばつや水害などが頻発し、被災地域の貧困化が進み、世界全体で難民・避難民の数は増大しています。**注目される人道危機があるその一方で、目が届かない場所や、支援の手が届かない場所が生まれているのです。**

日本赤十字社とNHKが例年12月に実施している募金キャンペーン「NHK 海外たすけあい」は今年で40回目を迎えます。世界中の苦しむ人々を救うため、皆さまの温かなご支援をよろしくお願いいたします。

詳しくは11/17に  
オープン予定の  
特設サイトをご覧ください

日赤 海外たすけあい

検索

### ～ 世界から届いた「ありがとう」の声 ～



© Marko Kocic/IFRC

ウクライナ

カリーナさん

「3歳の息子と足を骨折した母を連れての避難。食料も服もなく、孤独で恐ろしかったけれど、赤十字の方が家族のように迎え入れてくれました。私たちを支援してくれる全ての人に感謝を伝えたいです」



マラウイ

ウィルソンさん  
エズィリナさん

「息子夫妻をAIDS(エイズ)で亡くし、4人の孫を育てています。赤十字からもらったヤギのおかげで、孫たちの教育費を出せるようになりました」

### あなたのご寄付でできる支援

2000円

安全な水  
2L×40本



不衛生な環境下で暮らす人びとに飲料水、生活や医療で使用する水を届けます。

5000円

給食  
30人分



おなかを満たせない子どもたちへ支援を行います。

10000円

小児用医薬品  
500人分



下痢や感染症で命の危機にひんしている子どもに医薬品を届けます。

わたしも赤十字

今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で活動に参加する支援者がいます。全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にご紹介します。



寄付の協力者  
なかむらひろと  
中村広人さん

神奈川県横浜市 / 49歳 / 障害者福祉施設経営

苦勞した母への感謝の気持ちを  
寄付という形にかえて  
赤十字へ託す

私が赤十字を知ったのは小学生の頃。アフリカの海外支援の様子をテレビで見て母に尋ねると、食べ物が無い人たち、病気になってもお医者さんに診てもらえなくて困っている人たちを助けているんだよと、赤十字の名前を教えてくださいました。その後21歳になる頃、赤十字で働きたいと考えたことがあります。実は、私は大学2年生に進級する直前で、大学を中退しました。私の高校時代に両親が離婚、母子家庭になってからは体の弱い母を支え、毎日深夜までアルバイトをして学費や生活費を稼いでいましたが、大学の進級時に納める学費が足りなかったからです。学校をやめてきたと報告すると、母は大泣きしました。そんなとき「苦しい思いをしている人の力になりたい」と、赤十字に就職する道を模索しましたが、断念しました。

寄付を始めたのは、私が32歳のとき。母が62歳で亡くなったのがきっかけです。母の命日は、ちょうど私の誕生日でした。これも母からのメッセージ

かもしれない、苦勞した母を幸せにしたいと渡していた小遣いを困っている人のために生かそう、と考えたのです。その時はたまたま見かけた別の団体に寄付をしたのですが、2016年に献血バスで献血した際に、「そうだ、人を救うといえば赤十字だ!」と記憶がよみがえって(笑)。以来、毎月、赤十字への寄付を続け、厚生労働大臣感謝状など、いくつもの表彰を受けました。赤十字は国際救援や社会福祉事業、血液事業など活動範囲が広く一つ一つの活動に賛同しています。これからも寄付や献血の形で、人を救う活動の後方支援をしていきたいと思っています。

寄付するあなたも赤十字です

- クレジットカードで寄付
- 郵便局・銀行の口座振替
- 郵便局・銀行の窓口
- お近くの日本赤十字社窓口



TOPICS

# ぼうさいこくたい2022 in 兵庫

「未来につなぐ災害の経験と教訓～忘れない、伝える、活かす、備える～」



(A) 22日、オープニングセレモニーのあいさつで、防災への一人一人の意識向上を訴える清家社長

(B) リアル×オンラインのハイブリッド開催となった日赤ワークショップに積極的に参加する人々

(C) 日赤兵庫県支部の展示場で兵庫県声の図書赤十字奉仕団と清家社長、齋藤元彦 日赤兵庫県支部長(兵庫県知事)、大久保博章 事務局長(左から)

(D) 日赤兵庫県支部のブースで救護服体験をする子ども



10月22日(土)・23日(日)、「第7回防災推進国民大会(ぼうさいこくたい2022 / 主催: 内閣府・防災推進国民会議・防災推進協議会)」が、兵庫県神戸市で開催されました。

本大会は防災・減災を学ぶ日本最大級のイベント。今年は、阪神・淡路大震災の経験を語り継ぐ目的で開設された「人と防災未来センター」がメイン会場となり、全国から320団体が出展しました。オープニングセレモニーでは、防災推進国民会議の議長も務める清家 篤 日赤社長が開会のあいさつに立ち「私たち一人一人、そして地域で力を合わせて対応することは大切なこと」と、「自助」と「共助」の重要性を訴えました。

日赤は日頃から、自助・共助の力の向上を目的とする「赤十字防災セミナー」を全国で開催しています。本大会では、地震が起きたときの自宅の安全対策を考えるワークショップ「自宅の危険箇所はどこだろう?～家庭内DIGを使って確認しよう～」を特別プログラムとして実施。参加者からは、自宅の平面図を描いてみて地震が起きた際に家具が倒れそうな場所など家の中の危険を把握することができた、と大変好評でした。また、日赤兵庫県支部も別会場にて防災・減災体験ツアーや50人一心心肺蘇生などの体験型イベントを実施。多くの人が防災・減災の気づきを得る機会となりました。

# 献血

## まるわかり

# 辞典

「なるほど!」と思わずヒザを打つ  
“献血にまつわる豆知識”を紹介。  
第8回は、輸血用血液に「放射線照射」をする深〜いワケについて!

vol.8



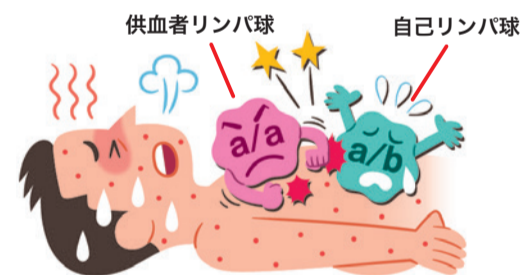
ほうしゃせん - しょうしゃ

## 【放射線照射】

輸血用血液に放射線を照射!?  
死に至る副作用から患者を守る!

今から24年前、輸血用の血液に放射線を照射することで血中のリンパ球(白血球の一種)を不活化させた血液製剤の供給が開始されました。輸血用の血液製剤には、①赤血球製剤、②血小板製剤、③全血製剤、④血漿製剤、があります。このうち①～③には放射線を照射し、④の血漿は、製造工程において凍結する際にリンパ球が壊れてしまうため、照射しません。このように放射線を当てることになった背景には、ごくごくまれに、「輸血後GVHD※」という重篤な副作用が発生していたためです。輸血を伴う手術日から10日ほどで高熱、紅斑、肝障害、下痢などの症状が起き、血液の成分が全て減少。免疫力が落ちた患者は感染症にかかりやすくなり、腎不全なども重なり、多臓器障害に。そして多くの場合、死に至ります。

「輸血後GVHD」は当初、患者側の免疫不全が原因と考えられていました。しかし研究の結果、「A型・B型・O型」などの血液型が一致していても、白血



供血者のリンパ球(a/a)が、もともと体内にある自己リンパ球(a/b)を攻撃してしまいます

球の型がほんのわずかに合わないことが原因と判明し、どの患者にも起こり得ることが明らかになりました。供血者のリンパ球が、輸血後に患者の体内で増殖し、自分と型が異なる患者のリンパ球を攻撃、患者の体の細胞、さまざまな臓器が、損傷を受けてしまうのです。

日赤では、輸血を受ける患者をGVHDから守るために研究を重ね、供血者のリンパ球を不活化するために微量の放射線を照射すれば解決できることを突き止めました。1998年、日赤による「放射線照射輸血用血液」の製造を国が承認。この輸血用血液の供給開始後、日本では輸血後GVHDの確定症例の報告はありません。また、現在まで放射線照射が原因となって受血患者の健康被害が生じた、との報告もありません。

※ graft versus host disease : 移植片対宿主病

献血血液は、どうなるの?  
「輸血用血液製剤が届けられるまで」





青森県

家族で「防災キャンプ」 楽しみながら災害に備える

9月17・18日、日赤青森県支部は、防災・減災への取り組みとして「ACTION! BOUSAI キャンプフェス」を初開催。青森市のモヤヒルズオートキャンプ場には家族連れなど約100人が集まり、アウトドア用食品の調理体験やハザードマップの見方などを確認しました。



18日は、配られたアウトドア用食品を調理して朝ごはん

埼玉県

若手神職たちが白い装束で 心肺蘇生訓練に参加

埼玉県長瀬町の寶登山神社では、9月9日「救急の日」に、埼玉県神道青年会による救急法講習会が開催され、日赤埼玉県支部の指導のもと、県内19の神社から26人の若手神職が白衣姿で受講しました。



いざというときに備え、大きな神社ではAEDの設置が進んでいる

京都府

岡山県

群馬県

各地で大規模防災訓練 日赤救護班、血液救急担当も参加

9月は全国各地で大規模な防災訓練が実施されました。9月4日、京都府総合防災訓練には、日赤京都府支部の災害対策本部要員、京都第一、第二赤十字病院のDMATと救護班、ボランティア「赤十字レスキューチェーン京都」から総勢38人が参加。



負傷者をトリアージする日赤救護班 岡山県 救護班と消防隊が協働で救護活動を行う

群馬県

「広い心で受け止める」 JRC国際交流事業の気づき

9月17日、日赤群馬県支部にて栃木県支部と合同の国際交流事業が開催されました。外国籍の移住者が多い両県の青少年赤十字(JRC)に所属する高校生約20人が、ヘルムとベトナムについて調べたことを発表。



地域共生のために「互いに違いを認め合う」などの意見が出た

岐阜県

JRC100周年、記念の図書を 加盟率100%の全校に贈呈

小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校の全568校が、青少年赤十字(JRC)に加盟している岐阜県。日赤岐阜県支部は読書を通じて「思いやる心」が育まれることを願い、またJRC100周年も記念して、県内全校に10万円分の図書を贈呈しました。



全校放送で赤十字やJRCの説明をし、啓発の機会とする学校も

広島県

ギネス世界記録、達成！ 100万羽折り鶴チャレンジ

9月24日、JRC100周年「100万羽おりづるプロジェクト」の一環として、日赤広島県支部ではギネス世界記録挑戦イベントを実施。312の学校と幼稚・保育園、39の企業・団体が8カ月かけて折り鶴を制作、「最も長い折り紙レ」



レイは1万5579.7m、折り鶴の総数57万9658羽(生徒の背後)

宮崎県

静岡県

台風14号災害支援の報告、 台風15号災害義援金\*を受け付け中

令和4年9月17日から接近した台風14号により、大きな被害を受けた宮崎県。日赤宮崎県支部は即日第一救護体制を取り、災害対応にあたりました。同支部は19日から5日間にわたり、支援要請のあった市町村へ、毛布(計1290枚)や緊急セット(計594セット)などの災害救援物資を搬送。



物資の積み込み作業のために駆け付けた赤十字ボランティア



記録的大雨により崩落した二俣川に架かる橋(浜松市)

\*義援金の募集については、被災都道府県の判断によるものであり、日本赤十字社はその判断に基づき、受付を実施しています。

受け付け中 「令和4年台風15号災害義援金(静岡県)」 ●受付期間:令和4年12月28日(水)まで

常任理事会開催報告 令和4年10月20日、令和4年度第6回の常任理事会が開催されました。今回の常任理事会では、長期ビジョンに基づく第二次中期事業計画策定の基本方針について審議し、令和4年8月3日からの大雨による災害にかかる赤十字ボランティアによる被災者支援活動事例について報告しました。

毎年恒例、大好評のプレゼント！ 2023年版が発売開始 赤十字手帳と赤十字カレンダー 今年もセットでプレゼント。応募方法は企業プレゼントコーナーの下をご覧ください。

赤十字はじめて物語

日本赤十字社の9つの事業 その出発点にはそれぞれの「はじまり」のストーリーがありました。

vol.8 災害救護

日赤初の災害救護活動 昭憲皇太后の思し召しが後押しに

災害救護は日赤の活動の柱。日頃から救護班の訓練やボランティアなどの人材を育成し、災害に備えています。日赤初の災害救護は、500人以上の死傷者が出た1888年の福島県・磐梯山噴火です。世界の赤十字は戦地における傷病者救護を活動の目的としており、日赤においても自然災害時の活動は想定していませんでした。

災害救護の契機となった「磐梯山噴火の救護活動」



被災者を手当てする日赤の医療関係者たち

「はじめて物語」 WEBサイトで さらに詳しく⇒

「赤十字を応援！」プレゼント パートナー企業紹介 vol.31 群馬丸魚グループ

環境にも配慮しながら、地域の人々のために企業努力を続けています



毎年1回、群馬県支部の指導員を招き、救急法の講習会を実施。毎年20人以上の社員が心肺蘇生法とAEDの使用法を学んでいます

昭和56年に群馬県伊勢崎市で創業し、「北関東の台所を賄う」という目標を掲げ群馬県や近県に水産物や食品全般の卸販売をしている群馬丸魚グループ。近年の急激な価格高騰の中でも、海産物の産地や仕入れ先に交渉し、量販店や小売店、ホテル、旅館などに安定した価格で新鮮で安全な商品を提供できるよう企業努力を重ねています。

【応募方法】 プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS11月号を手にした場所(例/献血ルーム) ⑥記事へのご意見・ご感想 ⑦希望するプレゼント名 ※いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からのお知らせに利用します。

群馬丸魚グループ

漬魚詰め合わせ



令和4、5年度の群馬県認定の優良県産品。厳選した鯉鮭に群馬県の日本酒を使用した伝統の粕漬けと、自慢の味噌漬、2種セット

こちらから応募できます

# WORLD NEWS

## アフリカの食料危機

ナイジェリア連邦共和国

ケニア共和国



視察中、ケニア赤十字社の食料配布に協力する吉田さん

## 過去数十年で最も深刻な、アフリカの食料危機

国際赤十字はアフリカ各地の状況を調査し、被害が深刻な地域に有力赤十字社の代表者らを派遣。ケニアに派遣された日赤職員に現地の状況と赤十字の活動を聞きました。

### ウクライナにおける武力紛争がアフリカに及ぼす影響

ウクライナで起きた武力紛争の影響で、食料価格の高騰が全世界に広がっています。小麦の85%をロシア、ウクライナからの輸入に依存するアフリカのサハラ以南諸国ではより深刻な食料危機が発生。人口2億614万人のナイジェリアでは、440万人が飢餓に直面し、5歳未満の子ども約138万人が栄養失調に苦しんでいます。

アフリカ全土では近年の干ばつや洪水などの異常気象により作物の収穫量が大幅に減少。自然災害に加え、政情不安、暴力、貧困が複雑に絡み合い、飢餓人口が過去最悪のレベルで増加の一途をたどっています。さらに新型コロナウイルス感染症のまん延による所

得の減少や武力紛争の影響で、人々がどのような窮地に追い込まれているか、実態を把握するため、国際赤十字はアフリカ各地を調査。ナイジェリアには日赤本社国際部長の田中康夫さんが、ケニアには日赤の職員でルワンダ首席代表を務める吉田拓さんが派遣され、赤十字職員やボランティアと共に住民への聞き取りや視察を行いました。9月8日、国際赤十字は現地調査の結果を踏まえ、ケニアの首都ナイロビで「アフリカ食料安全保障危機会議」を開催。10月6日、食料危機対応を支援すべく、国際赤十字・赤新月社連盟およびアフリカの被災国赤十字社は総額2億スイスフラン(約300億円)の支援要請を世界に向けて発信しました。日赤も前年度から同危機への資金援助を繰り返し行ってきましたが、このたびの大規模な支援要請を受け、新たに3000万円の緊急支援を実施しました。

### 唯一の財産、家畜も失い…ケニアの深刻な食料危機

吉田さんはケニア北部のマルサビット地区を調査しました。46万人の遊牧民が暮らすこの地区は、現在2人に1人が食料危機にひんしています。



日赤ルワンダ現地代表部首席代表  
吉田拓

「遊牧民はヤギなどの家畜を連れ、水を求めて移動しますが、近年の深刻な干ばつにより推定7頭に1頭の家畜が死滅、残る家畜もやせ細り、もはや市場で売ることもできません。ケニア赤十字社が行った食料配布の現場で出会った女性は、飼っていたヤギをほとんど失ったと嘆いていました。また、食料配布の現場まで10キロ以上歩いてきた母親の家には6人の子どもがいますが、配布した7kgの食料は3日で消費されてしまいます。この食料難をどう乗り越えるのか…。私たちが最も懸念するのは、この場に來られなかった多くの人々。食料配布の現場に來た人々は一見元気ですが、彼女らを家で待つ家族は、炎天下に食料を取りに來られないほど弱っている場合もある。先のお母さんには、次に失うのは人命だろう、と言われ言葉を失いました」(吉田さん)

赤十字の活動は、その国の政府や国連機関とも協力して行われますが、へき地の人々にも支援を行き届かせる活動は赤十字が担います。

「赤十字の強みは世界中のどこにでもボランティアがいること。特に都市部から遠く離れたコミュニティに暮らす人々の、声なき声に耳を傾けられるのは赤十字だけなのです」(吉田さん)

赤十字の支援は食料の配布だけでなく、人々が自らの力で食料課題の解決に向けて立ち上げられるように生活力を向上させる支援や、命と健康を守るための保健・衛生指導、生きるための水を供給する簡易水道の敷設など、多岐にわたります。これら全ての支援が、皆さまからの寄付で実現しています。



ナイジェリアで赤十字関係者と話し合う田中国際部長



## 赤十字、世界の「現場」から

supported by ICRC

赤十字国際委員会(ICRC)、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)、日赤の事業地で切り取られた1枚。知られざる世界の赤十字活動。

アフガニスタンの道端でわずかな農作物を売るモハマド・イブラヒム。1日0.7ドル(約100円)の収入しかなく、9人家族を抱え、「この先どうやって冬を乗り切れるか分からない」と嘆く。昨年8月の政変前から続く記録的な干ばつ、また政変後の経済破綻が食料危機に拍車をかけ、現在、同国は国民の半数以上が緊急支援を必要としている。

同国の人道危機を受け、ICRC、IFRCが現地で行う人道支援活動に日赤も資金協力。また、日赤の「アフガニスタン気候変動対策事業」では、活動の一部を食料支援に変更し、事業地の赤十字ボランティアの協力を得て支援が届きにくい女性にも食料配布を行った。

